

テーマ研究・調査活動成果報告書

提出日:2009年 05月 29日

<p>テーマ名</p>	<p>EAIに関する考察 ～ ITCにとってEAとは… ～</p>	
<p>届出組織等名称</p>	<p>企業内ITコーディネータ・ITガバナンス研究会</p>	
<p>成果物公開URL</p>	<p>http://www.itc.or.jp/foritc/useful/search/index.html</p>	
<p>当活動代表者 及び担当者連絡先</p>	<p>(代表者氏名) 古川 正紀 電話番号:048-866-7806 e-mail: furukawa-masaki@kmd.biglobe.n</p>	<p>(担当者氏名) 同左 電話番号: e-mail:</p>
<p>研究・調査 成果概要</p>	<p>1987年にジョン・A・ザックマン(John A. Zachman)氏が提唱したフレームワークをルーツにもつ「EA(Enterprise Architecture)」が、直近で注目を浴びたのが2000年のバブル崩壊後のことである。 本研究会(ITコーディネータテーマ研究会:ITガバナンス研究会)では今年度、この近年脚光を浴びたEAに注目して、研究テーマとして取り上げた。 当初、自治体のEA適用に特化した研究を試行し、成功モデルとして「川口市役所」を取り上げ、実地ヒアリング等を重ねたが、「ITCがEAを自らの道具として使いこなすには…」を到達点に置いた場合、自治体特化だけでは足りない部分が出ることを考慮し、最終的には広くEAに関する考察を行った。 その研究成果を最終的に纏めるにあたり、ITコーディネータの視点から執筆者各自が蓄積してきた技術や見識をもとに、「EAIについて述べる…」という形式をとらせて頂いた。</p>	
<p>成果物</p>	<p>メンバー8名がそれぞれ自主的な活動で学習し且つ結果を論文に纏めることで研究会を進めたが、最終的には下記4メンバーが執筆した論文集として、「EAIに関する考察 ～ITCにとってEAとは…～」を脱稿した。 執筆者は以下の通り。(アイウエオ順) 千枝 和行(0029302004C) 古川 正紀(0005462001C) 牧田 一雄(0052712005C) 山崎 直和(0035252003C)</p>	

* 青字は事務局で記入します。

<p>事務局受付日</p>	<p>2010/2/27</p>
<p>案件番号</p>	<p>S09004</p>